２０２３年度　第２回　町田市立博物館運営委員会　議事録（要旨）

１　開催日時：２０２４年２月２日（金）午後２時～４時
２　会　　場：町田市民文学館ことばらんど　会議室１・２（リモート併催）
３　配布資料：
　資料１－１　２０２３年度の事業
　資料１－２　２０２３年度の事業（写真）
　資料２－１　２０２４年度の事業予定
　資料２－２　２０２４年度の事業予定（写真）

４　出 席 者：【委　員】
　井上　暁子　委員長　　玉蟲　敏子　副委員長　　原田　一敏　委員
　今井　　敦　委員　　宮原　裕美　委員　　若月　雅裕　委員
　伊藤　嘉章　博物館館長

５　議　　題（報告）
（１）報告－１　２０２３年度の事業＜資料１－１、１－２＞
事務局　展示３件、体験講座１２件、ブース出展３件、大学連携１件、作品貸出１件を実施した。
委　員　「キラキラ・ころころ　ことばと楽しむ工芸作品！」展について、特別協力の町田市俳句連盟の方には俳句を１７句詠んでいただいたということだったが、「キラキラ」といった擬態語を俳句に入れてもらうなど、博物館は何らかの指定をしたのか。
事務局　俳句の内容について博物館から要望は出していない。しかし、事前に作品を見ていただく機会を設け、展覧会の趣旨を説明したため、それに合わせて擬態語を俳句に入れてくださった方もいた。
委　員　俳句とのコラボというのはユニークな企画だと感じた。実施に難しさがあったのではないか。
事務局　企画当初は俳句連盟の方から、作品を題材に俳句を詠むのは難しいのではないかという意見をいただいた。そのため学芸員が展覧会出品作品を選定する段階で、季節感を感じさせるような文様の作品を選ぶなどコラボが行いやすいよう工夫した。
委　員　俳句とのコラボは斬新さがあり、今後繰り返し実施することもよいのではないか。
事務局　今後実施の可能性を検討したい。
委　員　体験講座「ガラスフュージングで箸置を作ろう！」について、日常生活で用いる箸置を作るという題材の選択はよかったと思う。
事務局　今後も多くの市民が参加しやすい内容を考えていきたい。（仮称）公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟で工芸体験講座を実施する際の参考にもしていきた

い。

委　員　体験講座「３色の粘土でいろどり皿作り体験」について、集客に若干苦労したとのことだったが、日常的に使う言葉の中から講座名を決めるのがよいのではないか。

事務局　制作技法よりも、出来上がった物の用途を講座名に入れたほうが、集客しやすい傾向にあると感じている。講座名を考えるうえで参考にさせていただきたい。

委　員　工芸美術の魅力を広めていく立場として、技法や素材と視覚的な表現が密接につながっているという視点は大事にしてほしい。

事務局　今後の参考にしたい。

委　員　難易度の高い講座だと思ったが、参加者の作品が割れるといったアクシデントはなかったか。

事務局　学芸員が講師と講座内容について入念な打ち合わせを行ったため、アクシデントは発生しなかった。

委　員　体験講座「はじめての蒔絵体験」について、面白い講座だと思うので今後も続けていってほしい。漆器をよく使う時期であるお正月に合わせるのもよいのではないか。

事務局　今後の参考にしたい。

委　員　体験講座全般について、募集人数における実際の参加者の割合はどれくらいか。

事務局　申し込みの段階ではほぼ満席である。体調不良などにより当日キャンセルがあった場合、その分空きが出ている。

委　員　子どもや親子をターゲットにした体験講座が多いように感じるが、今後シニア向けの体験講座を企画する予定はあるか。

事務局　子どもも気軽に参加できる初級の講座だけでなく、少し難易度を上げた大人向けの講座も今後検討していきたい。

委　員　今年度は蒔絵の講座を行ったということだったが、漆の技法では金継の需要があるようだ。こういったものをシニア向けの講座にしてみるのはどうか。

事務局　今後講座を企画する際の参考にしたい。

委　員　広報について、展覧会を開催する上での学芸員の苦労話を紹介する、動画で展示会場を紹介するというのはどうか。「人」にフォーカスするとより親近感を感じてもらえると思う。

事務局　SNS の使い方は引き続き工夫していきたい。動画での展示会場の紹介は来年度ぜひやりたい。

委　員　体験講座全般について、参加者が実際に作っている日用品・雑貨と、美術館に展示されている芸術作品とのギャップを、講座の中でどう結び付けていけるかが課題ではないか。

事務局　体験講座の中で参加者が体験している技法について、それが芸術作品の中でどのように用いられているかを口頭や紙芝居で説明するようにしている。今後も改善策を考えながら続けていきたい。

委　員　　（仮称）国際工芸美術館と（仮称）公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟がオープンした際には、例えば体験をした後に展示室に行くなど、体験と鑑賞を合わせてやっていけるとよいのではないか。

事務局　今後の参考にしたい。

委　員　体験講座「町田の土で皿づくり」について、町田の土には特徴があるのか、出来上がった作品には他のやきものとの違いが生まれるのか。

事務局　町田の土は可塑性の低い粘土で、そのままでは扱いが難しいが、講師が工夫することで使いやすい粘土に加工している。町田は古代より窯業が行われ、市内にある縄文時代の遺跡から土器が多く出土している。出来上がった作品はこれらと質感が似ており、現代と古代の繋がりを感じていただける講座となっている。

（２）報告－２　２０２４年度の事業予定＜資料２－１、２－２＞

事務局　展示２件、体験講座１０件、ブース出展２件、大学連携２件を実施する予定である。

委　員　展示「茶の湯×茶道具展」について、茶道具の展示を過去に行ったことがあるが、お箸を添えるだけで作品の雰囲気が変わって見える。いろいろな工夫をしながらやるといいのではないか。

事務局　展覧会実施時の参考にしたい。

委　員　茶道具のしつらえは博物館が考えるのか、町田茶道会が考えるのか。作成する小冊子を茶会記風にしたら面白いのではないか。

事務局　町田茶道会とはまだ打ち合わせの段階で具体的な話をしていない。小冊子については作成する際の参考にしたい。

委　員　広報について、SNS で影響力を持つインフルエンサーを招待して撮影会の場を設け写真を投稿してもらうというのはどうか。大学連携などで大学生を招待して行うというのもひとつの手である。SNS を利用してどうすれば若い年齢層が工芸に親しめるかを考えていくとよいのではないか。

事務局　現段階では、予算の関係でインフルエンサーを呼ぶというのは現実的でないが、広報の方法について今後検討していきたい。

委　員　仮設の茶室はどのように用意するのか。

事務局　移動式の茶室を貸し出す事業者に委託することを検討している。

委　員　ほかの美術館でも様々な茶道具展示を行っている。それらを参考にするとよい。

事務局　展示の方法については工夫の余地が多くある。今後の参考にしたい。

委　員　体験講座全般について、日本人はそれが誰のうつわかを意識する傾向にあるので、それを利用すると集客につながるのではないか。

事務局　体験講座「粘土から作る My 茶碗 My 箸置」では自分のものであることを強調しているが、他の講座についても検討したい。

委　員　小学校では、ただ「三角形の勉強をします」ではなく「三角形の秘密を見つけよ

う」といった表現をすることで子どもの興味を引き出そうとしている。講座名には体言止めのものと、「～してみよう！」「作ろう！」など呼びかけ形式のものがある。後者の方がより良いと思う。また、小学生を呼びたいのであれば感嘆符は必ず入れたほうがいい。

事務局　小学校の事例は非常に興味深い。今後の参考にしたい。

（４）その他

事務局　（仮称）国際工芸美術館の進捗状況について、２０２３年６月に工事の入札が中止となり、その後公募型プロポーザル方式に変更して募集したが契約に至らなかった。理由は資材費高騰や技術者不足などである。今後はコンストラクションマネジメントを導入し、発注に向けて動いていく。開館時期は前回報告した２０２６年９月よりは後ろ倒しになる。

事務局　本日いただいたご意見をもとに、今後の博物館の運営を行っていく。

委員長　これをもって閉会とする。